

# 第5学年 道徳科学習指導案

令和3年10月27日（水）第5校時

- 1 主 題 名 みんなが気持ちよく 内容項目〔C 規則の尊重〕
- 2 ねらい イニシャルのマークに興味を引かれ、自分のマークを学校に描こうか、描くまいか葛藤する姿から、主人公の気持ちを想像する活動を通じて、法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たす心情を育てる。  
教材名 「イニシャルの落書き」（出典 彩の国の道徳「夢に向かって」 埼玉県教育委員会）

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいや指導内容について

本主題は、小学校学習指導要領第三章特別の教科道徳の内容項目 C「主として集団や社会との関わりに関すること」の〔規則の尊重〕、第5学年及び第6学年「法や決まりの意義を理解した上で、進んでそれらを守り自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」をねらいとしている。これは、第1学年及び第2学年の「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること」、第3学年及び第4学年の「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること」を受け、中学校の「法やきまりの意義を理解し、それらを信じて守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして規律ある安定した社会の実現に努めること」へと発展していく。また、第5学年においては、本教材を経て、「32 お客様（新みんなのどうとく 学研教育みらい）」の学習で、権利と義務という関係性について考えさせていくように発展する。

第5学年及び第6学年の段階においては、社会生活上のきまり、基本的なマナーや礼儀作法、モラルなどの倫理観を育成することが必要となってくる。一方で、日常生活において、権利や義務という観点から、自他の行動などについて考えを深めたり、それらを尊重したりすることは少ない。

指導に当たっては、社会生活を送る上で必要であるきまりや、国会が定めるきまりである法（法律）などを進んで守り従うという遵法の精神をもつところまで高めていく必要がある。また、他人の権利を理解、尊重し、自分の権利を正しく主張するとともに、義務を遂行しないで権利ばかりを主張していたのでは社会は維持できないことについても具体的に考えを深め、自分に課された義務についてはしっかり果たそうとする態度を育成することが重要である。また、身近な集団生活を送る上においても、みんなが互いの権利を尊重し合い、自らの義務を進んで果たすことが大切であるという理解と積極的な行動ができるようにする必要がある。

### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

明るく元気があり、活動的な児童が多い。高学年になり規則やそれを守ることの大切さ、行動の善悪について判断できるようになり、多くはこれを守ろうとしてきている。しかし、その内面を探ってみると、「みんなもしているから」「怒られたり注意されたりするから」という公德に基づかない判断も見られる。「みんなにとって」「社会にとって」といった視点からの、自分自身の行為についての自覚が不十

分な面がある。また、きまりは守らなくてはいけないと口で言っている、実際は係の当番を忘れて、友だちが発表しているときに別の話をし始めたりするなど、言ったことと行動が違うことも見られる。また、その行動は間違っていると思っても仲のよい者同士で馴れ合いになってしまい、悪いとわかっていても注意し合えない時もある。

そこで、本主題を学習するに当たり、児童一人一人の考えや経験を事前に調査することで、学習が今後の生活に生かせるように、実態調査を行った。

質問項目	回答
教室や特別教室の机にいたずら書きをしてしまったことがある。	はい 7人 いいえ 17人
規則（ルール）は必要だと思う。	はい 22人 いいえ 2人
それはどうしてですか	<p>(はい)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんながいやな思いをしないために必要だと思う。</li> <li>・けがをする人が増えてしまう。</li> <li>・授業が進まなくなってしまう</li> <li>・将来、そのルールが役に立つことがあると思う。</li> </ul> <p>(いいえ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールがありすぎて自由がなくなるより、ない方がいい。</li> <li>・ルールを守るのが面倒くさい。</li> </ul>

本学級はアンケート調査から、ルールの必要性を感じている児童が多いということがわかった。「いいえ」を選んだ子はルールを守ることで自由が失われることがいやだという意見だった。ただ、ルールの必要性を理解していても、いたずら書きをしてしまうなど、ついそのルールを破ってしまう子がいることもわかった。

そこで、本教材を通し、自分の書いたイニシャルのマークを残していきたい気持ちに共感させるとともに、それによって周りの人にどんな迷惑をかけてしまうのかを考えさせることで、ルールを守っていかうという心情を育てたい。

### (3) 教材の特質や活用方法について

主人公のぼく（慎吾）は学校帰りに本屋のシャッターに描かれたマークを見て、興味を引かれた。家に着くと、すぐに自分のマーク作りをノートに始めた。翌日、登校したぼくは友だちの机の裏に卒業生がマジックで描いたサインと、それを真似してマジックでサインをする友だちの姿を見る。その夜、自分のマークが完成し、どこかに書き残したいという思いを抱いた。しかし、翌朝、本屋の人たちがシャッターの落書きを消している様子を見て、自分のマークを書き残すことを思いとどまるという話である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の視点を中心に話し合い、ねらいに迫る。

#### ①シャッターに書かれたマークを見た「ぼく」の心情

ここでは、家に帰ってすぐに自分のマークを作りはじめた主人公の心情を考えさせる。多くの児童は「落書きはいけないこと」と認識しているので、表面的な議論になりやすい。そこでマーク作りに励

んでいる時の気持ちに十分共感させ、できあがったマークを大切に思う主人公の思いについて考えさせたい。それと同時に、大人から見れば、他人の店のシャッターに勝手に描いた迷惑な落書きであるという、視点の違いについても考えさせたい。

#### ②友だちが机の裏にサインを描いているのを見ている時の心情

机の裏にサインが描いてあり、友だちも同じようにサインペンで描き始めた場面を見て、自分も一生懸命考えたマークを残したくなる心情を考えさせる。「みんな、卒業の思い出に描いていくんだな。」という文章を取り上げ、「自分だけじゃない。」「みんなもやっているから。」という心情を想起させたい。また、「だれにも迷惑をかけていないから。」という文章から「ばれなければ大丈夫じゃないか。」という気持ちがわく心情についても考えさせたい。

#### ③お店の人たちが、シャッターに描かれたマークを消しているのを見た時の心情

自分が心ひかれたマークが消されている所を見たぼくの心情を考えさせる。自分にとっては憧れたマークは勝手に描かれたもので、本屋さんからすると迷惑であること、そして、それを消すために努力している姿を見て揺れる心情について考えさせたい。

#### ④完成されたマークを机に描くか迷う場面

学校でランドセルからノートを出し、ノートを見ているぼくはどんな心情だったか考えさせる。「一生懸命描いたものを残したい」「机の裏になら誰の迷惑にもならない」という心情と「人の物に勝手に描いては迷惑である」という心情を想起させ、どうするべきかについて考えさせたい。

以上のことを踏まえて、「規則の尊重」についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して、自己の生き方を深めたいと考え、本主題「みんなが気持ちよく」を設定した。

## 4 研究主題との関わり

研究主題 豊かな心を育む 子どもが輝く授業づくり  
～「特別の教科 道徳」を通して～

### <目指す児童像>

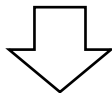
- ① 学習を通じて、道徳的諸価値について理解することができる児童
- ② 他者と対話したり協働したりしながら、物事の多面的・多角的に考えることができる児童
- ③ 道徳的諸価値を基盤として、自己の生き方について考えを深める児童

仮説1 児童の発達段階や特性等を考慮し、指導のねらいに迫る発問を明確にし、授業の構成や指導内容を工夫すれば、児童が道徳的価値への理解を深めるとともに、自ら考え、主体的に学習に取り組むことができるようになるであろう。

<手立て>

①発問構成の工夫

教材のもつ主題やテーマそのものに関わり掘り下げたり追及したりする発問を中心に、場面発問や補助発問を適宜組み合わせることで、児童自ら道徳的価値への理解ができるよう促す。また、多面的・多角的思考を促す発問をすることで、児童が主体的に学習に取り組もうとする態度を育てる。

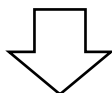


本時では、「学校でランドセルからノートを出し、ノートを見ているぼくはどんな気持ちだったのでしょうか。」を中心発問とした。児童のほとんどは描いてはいけないという意見をもつと予想される。そこで、教師役が友人役となる等、役割演技を取り入れることで、描いてはいけない理由についても考えを広げられるようにする。

また、実際に落書きをされた人たちがそうじをしているニュースを見せる。きまりを守らないことで困る人がいる、という実感をもたせたい。

②授業展開の工夫

児童が道徳的価値について主体的に考えることができるよう、読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習だけでなく、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れる。児童が自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせ、自分事として考えたり感じたりすることができるようにする。



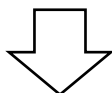
本時では、家に帰ってすぐに自分のマークを作り始めたときの主人公の気持ちについて考えさせる。マークを見て、それに憧れた気持ち、自分もやってみたいと思うぼく的心情について共感させ、自分事として考えようとする態度を育む。

仮説2 教材や体験などを基に、考えたことや感じたことを共有させたり、異なる視点から多面的・多角的に考え、議論させたりすれば、自らの感じ方や考え方を深め、自らの成長を実感できるようになるであろう。

<手立て>

①言葉を生かし考えを深める工夫

児童が自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会の充実を図る。具体的には、役割演技を生かした話合い、小集団での話合い、書く活動の工夫、ICT機器の活用等、授業で意図的に設定していく。



本時では、役割演技を生かした話合いを取り入れる。「みんなもやっているから」「机の裏なら迷惑にならないから」と誘われたときに、どう返答するかを考えることにより、書いてはいけない理由についての考えを深めさせる。

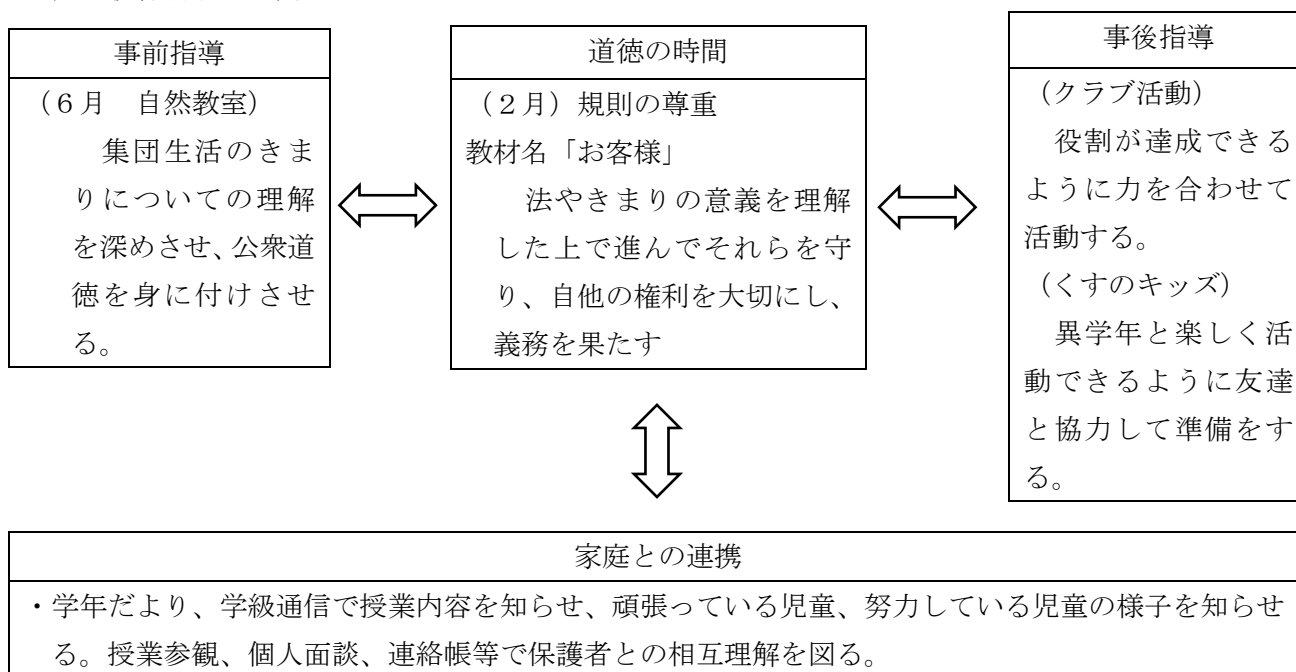
## 5 学習過程

段階	学習活動 ○主な発問	・予想される児童の発言	指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 ストリートアートの画像を見て、なぜこのような絵を描くのか考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上手だな。</li> <li>・誰が描いたんだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストリートアートに興味をもたせる。公式な物と落書きを取り混ぜ、作品に魅力を感じた主人公の紹介へとつなげる。</li> </ul>
展開	2 教材の読み聞かせを聞き、話の内容をつかむ。 (1) 登場人物の条件・状況について知る。 (2) 教師の範読を聞く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;登場人物&gt;              ぼく(慎吾)、お父さん、友だち              ぼくは学校帰りに本屋のシャッターに描かれたマークを見て、興味を引かれた。家に帰るとすぐにそれをまねして自分のマークを作り始めた。次の日、学校の机の裏に卒業生のサインを見たぼくは、自分もマークを机に描き残したいと思うようになる。</p> </div>	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             みんなが気持ちよくすごすために大切なことはなんだろう。           </div>	
	(3) 教材にある道徳的な問題について話し合う。 ○家に帰ってすぐに自分のマークを作りはじめたのは、どんな気持ちからですか。 ㊦お父さんは、どんな気持ちで「ああいうことをやらないようにな」と言ったんだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャッターのマークがかっこよかった。</li> <li>・自分もあんなマークを作りたい。</li> <li>・自分だけのマークがほしい。</li> <li>・落書きはとても迷惑だ</li> <li>・落書きをするような人になってほしくない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マークを見て、それに憧れた気持ち、自分もやってみたいと思うぼく的心情について考え、十分に共感させる。</li> <li>・大人から見れば、他人の店のシャッターに勝手に描いた迷惑な落書きであるという、視点の違いについても考えさせる。</li> </ul>

<p>○友だちが机の裏にサインを描いているのを見て、どんなことを考えていますか。</p>	<p><b>【ぼくも描きたい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一生懸命描いたマークをみんなにも見てほしい。</li> <li>・みんなも描いている。</li> <li>・卒業の記念に自分のマークを残していきたい。</li> <li>・目立たないところなら平気だと思う。</li> </ul> <p><b>【描いてはいけない】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この机はみんなが使う机だから描いちゃだめだ。</li> <li>・迷惑をかけてしまう。</li> <li>・見つかったら怒られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんな、卒業の思い出に描いていくんだな。」「だれにも迷惑をかけていないから。」という本文に着目させ、自分が一生懸命描いたマークを残していきたいという心情に共感させる。</li> </ul>
<p>○お店の人たちが、シャッターに描かれたマークを消しているのを見て、ぼくは何を思ったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店が開く前に消そうとしているんだな。</li> <li>・消すのは大変なんだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとってはよくできた作品でも、知らない人にとっては価値のないもので迷惑になってしまうということに気付かせる。</li> </ul>
<p>○学校でランドセルからノートを出し、ノートを見ているぼくはどんな気持ちだったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記念のつもりで描いたけど、そのあとに机を使う子はどんな気持ちになるだろう。</li> <li>・一生懸命描いたけど、知らない人から見たらいたずら書きにしか見えないだろう。</li> <li>・描いて残したい気持ちはあるけど、シャッターの落書きを一生懸命消す人達を見て、自分勝手なことをしてはいけないと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この時点で児童のほとんどは描いてはいけないという意見をもつと予想される。そこで、役割演技を取り入れ、描いてはいけない理由について考えさせる。教師が友人役となり、「みんなもやっている」「机の裏なら迷惑にならない」と誘い、それに対する返答をさせることによって、描いてはいけない理由を深めさせる。</li> <li>☆自分が描いたマークを残したい気持ちと、机に落書きをすることで周りの人へどのような影響を与えるかを対比させ、多面的・多角的に考えている。</li> </ul>

			(発言・記述)
終末	3 今までの自分を振り返り、よりよい生き方を考える。 ○みんなが気持ちよく生活していくためのきまりや約束について、自分はどうにか関わってきたのか振り返りましょう。	・みんなで使う物は大切にしなければいけない。 ・自分のやりたいことだけを考えてはいけない。	・実際に落書きをされた店の人の動画を見て、落書きされてしまった人の心情を考えさせる。 ☆きまりの意義を理解した上で、きまりを守ることについて、自分との関わりで考えたり、書いたりしている。 (発言・記述)

## 6 他の教育活動との関連



## 7 評価の視点

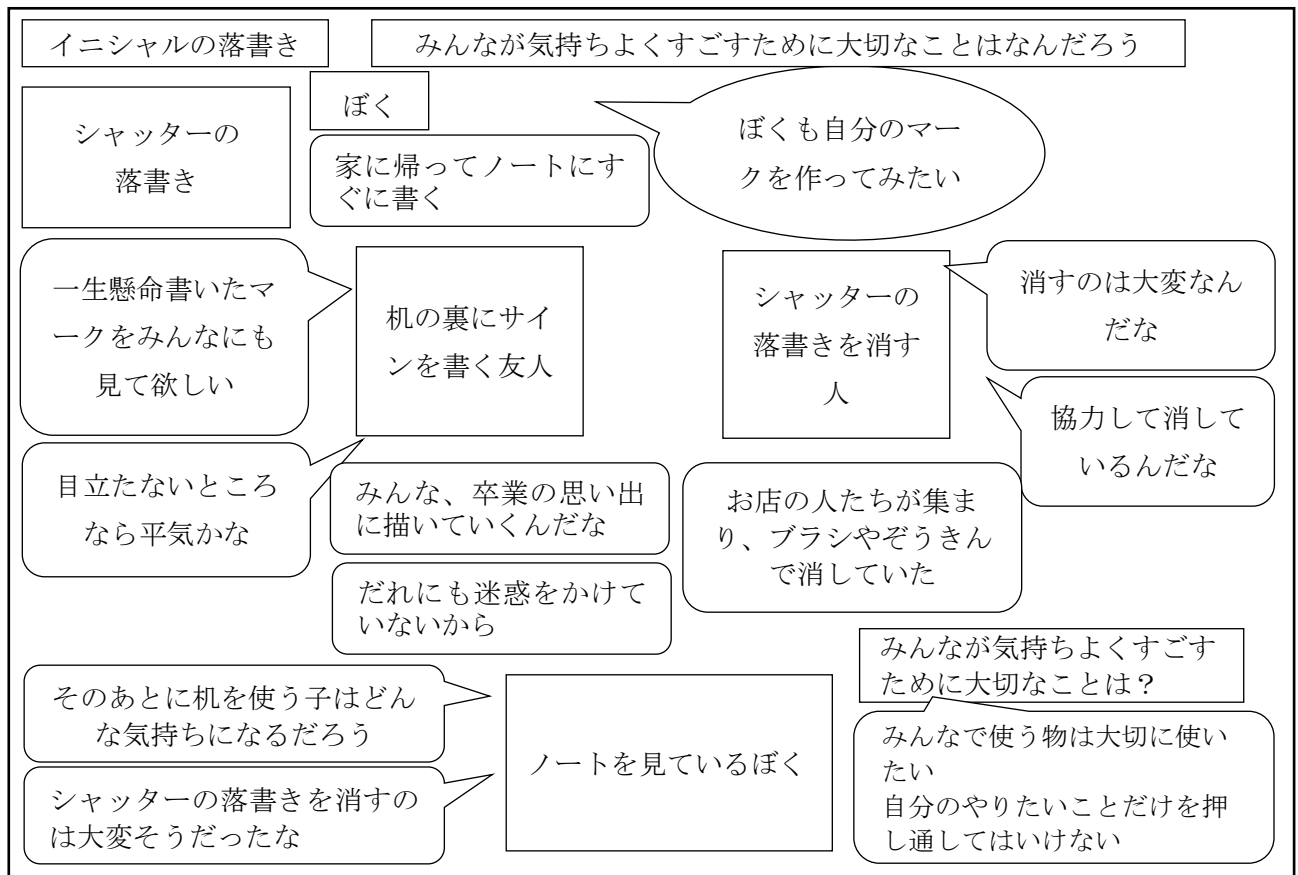
### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・自分が描いたマークを残したい気持ちと、机に落書きをすることで周りの人へどのような影響を与えるかを対比させ考えている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・きまりの意義を理解した上で、きまりを守ることについて、自分との関わりで考えたり、書いたりしている。

8 板書計画





## 5年 道徳科研究授業・発問の流れ

1 主題名・内容項目	みんなが気持ちよく 内容項目〔C 規則の尊重〕	
2 ねらい	イニシャルのマークに興味を引かれ、自分のマークを学校に描こうか、描くまいか葛藤する姿から、主人公の気持ちを想像する活動を通じて、法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たす心情を育てる。	
3 教材名	「イニシャルの落書き」	
4 ねらいに迫る中心発問	教師の発問	発問の意図やねらい
	T 学校でランドセルからノートを出し、ノートを見ているぼくはどんな気持ちだったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この時点で児童のほとんどは描いてはいけないという意見をもつと予想される。そこで、役割演技を取り入れ、描いてはいけない理由について考えさせる。教師が友人役となり、「みんなもやっている」「机の裏なら迷惑にならない」と誘い、それに対する返答をさせることによって、描いてはいけない理由を深めさせる。</li> </ul>
5 中心発問を支える発問①	<p>T 家に帰ってすぐに自分のマークを作りはじめたのは、どんな気持ちからですか。</p> <p><b>補助発問</b> 同じマークを見たお父さんの発言についてどう思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マークを見て、それに憧れた気持ち、自分もやってみたいと思うぼく的心情について考え、十分に共感できるようにする。</li> <li>・大人から見れば、他人の店のシャッターに勝手に描いた迷惑な落書きであるという、視点の違いについても考えさせる。</li> </ul>
中心発問を支える発問②	T 友だちが机の裏にサインを描いているのを見て、どんなことを考えていますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんな、卒業の思い出に描いていくんだな。」「だれにも迷惑をかけていないから。」という本文に着目させ、自分が一生懸命描いたマークを残していきたいという心情に共感させる。</li> </ul>
中心発問を支える発問③	T お店の人たちが、シャッターに描かれたマークを消しているのを見て、ぼくは何を思ったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとってはよくできた作品でも、知らない人にとっては価値のないもので迷惑になってしまうということに気付かせる。</li> </ul>
6 授業展開、教材・教具の工夫	<p>導入でストリートアートに興味を持たせる。公式な物と落書きを取り混ぜ、作品に魅力を感じた主人公の紹介へとつなげる。</p> <p>展開では、役割演技を取り入れ、多様な価値観に触れさせ、友達の考えを多面的・多角的に考えられるようにする。</p>	